

平成 27 年度 第 2 回久慈市総合教育会議 会議録【要旨】

1 日 時 平成27年11月10日（火）午後 3 時00分～午後 4 時51分

2 場 所 第 1 会議室

3 出席した構成員

市 長	遠 藤 讓 一 君
教育委員長	成 田 不 美 君
教育委員	吉 田 祥 子 君
教育委員	宇 部 京 子 君
教 育 長	加 藤 春 男 君

4 欠席した構成員

教育委員	佐々木 明 君
------	---------

5 説明等のため出席した職員

教 育 部 長	澤 里 充 男 君
教育総務課長	大 橋 卓 君
学校教育課長	小 橋 敏 君
生涯学習課長	五日市 清 樹 君
教育総務課総務係長	中 村 紀 保（記録）

6 会議内容

開会

澤里教育部長 皆様、お忙しい中、出席いただきありがとうございます。
ただいまから、第2回久慈市総合教育会議を開催いたします。
はじめに、遠藤市長からごあいさつを申し上げます。

挨拶

遠藤市長 本当にお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。

本日は2回目の会議になります。前回は、この会議の骨格を決めるという会議でありましたが、いじめ防止対策についても色々と意見交換をすることができました。

今回は、新年度予算の作業にこれから入ってまいりますので、教育行政の課題やあるべき姿について認識を共有していきたいと思っております。

地方創生の関係で、久慈市でも総合戦略の案を10月末に

作成いたしました。人口ビジョンも併せて発表いたしました。25年後の平成40年度に今から約1万人の人口が減るといふ数値を推計で出しました。実は、増田レポート等からいきますと、もっと減るといふ数値が出ています。そういう意味では、約2万6千人といふ事は、かなり努力しなければ維持できない数字ですが、是非、そこまではもっていかうと考えております。

少子化が問題です。高卒の若い人の7割が市外にでる。ほとんどが首都圏に出る。久慈市には専門学校もありませんので、進学希望の者は全員が外に出る。戻って来たいと思った時に、なかなか就職先の選択肢が少ないといった状況です。こういう所を全力で取り組んでいって、25年後に2万6千人を維持したいと思っております。

常に、子ども達が減りますと、学校の統廃合の話が出て参りますが、学校が無くなりますと地域の存続問題が出てきます。単に、子どもが少なくなったから廃校といふ事にはならないと思っております。

子どもが増える状況、少なくとも横ばいになれば良いのですが、それさえも難しい。いずれ、市民を挙げて取り組んでいかなければならないと考えております。

現場が抱える課題等も色々あると思ひます。委員の皆様から忌憚のない意見を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

議事

澤里教育部長

それでは、「3 議事」に入らせていただきます。

本日の議題は、「教育に関する重要施策の方向性」でございますが、これより以降は、要領第3の規定により、市長が議長を務めることになっておりますので、市長にお願ひしたいと思ひます。

議長(遠藤市長)

それでは、早速本題に入りたいと思ひます。

まずは、本議題について、事務局から説明をお願いします。

大橋教育総務

議案について、ご説明を申し上げます。

課長

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項第1号の規定に基づき、協議を行っていただくものであ

り、予算の権限を持つ市長と教育行政の執行をする教育委員会が、来年度の教育行政施策に係る方向性につきまして協議を行い、考えの共有を図るものであります。

今回は、教育委員会から2件の提言が提出されております。

以上で、説明を終わります。

議長(遠藤市長) それでは、教育委員会から提出されております件について伺ってよろしいでしょうか。

加藤教育長 それでは、資料の「市総合計画(前期基本計画)案の教育に関わる部分」をご覧ください。

来年度の教育行政施策につきましては、現在作成しております市総合計画の前期基本計画にそって実施されるものと思います。

この計画に掲載されている施策にかかる事業は、どれも重要な項目であります。予算等の面から特にも配慮していただきたい項目について、今回提言をいたしたいと思っております。

まず、「学校教育の充実」の「③特別支援教育の充実」につきましてですが、この特別支援の充実については、市独自で「くじかがやきプラン」を実施しております。資料 1-1 をご覧ください。

本事業は、通常学級に在籍している注意欠陥多動性障がいやアスペルガー症候群といった発達障がいなどがある児童生徒が居る学校に対して支援員を配置し、当該児童生徒へのきめ細やかな指導・支援を実現するとともに、学校生活を共にする他の児童生徒への支援も行い、教育の充実を図るものであります。

発達障がい等の児童生徒への対応は、学級担任1人では非常に困難であり、担任を持たない教員や副校長、あるいは校長までもが当該児童生徒の対応を行っていた状況であったことから、平成 19 年度から支援員を配置してきました。

事業の概要としましては、資料掲載のとおりとなりますが、支援を要する児童生徒数は増加傾向にあり、学校から配置の要望がありますが、要望数どおりに支援員の配置ができていない状況であります。

本事業は、特別に支援が必要な児童生徒の支援が目的ではありますが、そのような児童生徒に対応する支援員が適正に配置されることになれば、学級担任は授業に集中できることとなり、また副校長、校長は学校運営に専念できるという効果もあります。

このことから、来年度は更なる充実を図って行きたいと考えおりますので、よろしくお願いいたします。

2点目は、資料 1-2 ですが、生涯学習の充実の「学校・家庭・地域の連携協力推進事業」についてであります。

家庭教育支援基盤形成事業、放課後子ども教室推進事業、学校支援地域本部事業を組み合わせた事業であり、事業の概要としましては、資料に掲載のとおりとなっております。

本事業は、学校を中心とした地域社会の教育力向上を図るものであり、また、地域コミュニティの活性化にも繋がる事業でもあります。地方再生を目的に国を挙げて取り組んでおります「まち・ひと・しごと創生事業」とも密接に関わってくるものと考えております。

また、放課後子ども教室は、放課後の子ども居場所づくりをすることで子育て環境の充実という面もありますし、放課後の学習機会の提供を通じて学力向上にも繋げていけるなど、複合的な目的があります。

事業費について、平成 24 年度から震災復興ということで、事業費の 10/10 が県から委託費が来ておりましたが、来年度からは従前に戻り、委託費が事業費の 2/3 となる予定となっております。

現状では、ぜひ本事業を継続したいと考えており、事業の縮小は考えられないことから、来年度についても充実を図って参りたいと考えております。

市の予算に関わる話ではありますが、ぜひよろしくお願いいたしますと思います。

議長（遠藤市長） それでは、委員の方々から意見を頂戴したいと思います。

まずは、特別支援教育の充実から頂きたいと思います。吉田委員からよろしいでしょうか。

吉田教育委員 実際に学校を見て感じてきた事ですが、こういう担任の先生以外の大人が居る事が、子ども達にとっても大きな役割を果たしているなと感じてきました。

担任の先生ではない少し自分に近い大人の存在は、毎日集団生活をしている子どもにとって、すごく安心感があり、頼れる存在になっているのではないかと感じています。

特別支援を受けている子どももそうですが、そうではない子ども達にとっても、特別支援の子どもとの関わり方であったり、トラブル

があった時とか、居てくれるだけでもとても良いと思います。

話が変わるかもしれませんが、以前、教育委員会議で先生方の多忙の話をした事がありますが、実際、支援員の方が先生の仕事の変わりをするという事が無いにしても、そういう子どもに付いていてくれるだけでも、先生方の心の余裕にもなると思います。

子どもの数が減っている中で支援を要する子どもは増えているという現状にあって、教職員だけでは難しいという時代の流れになってきていると感じています。

成田教育委員
長

久慈市では、「インクルーシブ教育の充実を推進する」という事が総合計画にあります。この理念はぜひ貫いていただきたいと思っています。

先ほど、吉田委員が話されたように、発達障がいの子どものというのは、1人ではコミュニケーションが取れない子どもなので、インクルーシブ教育として、皆で一緒に勉強しようということをして久慈市はやろうとしているので、そこにはやはり支援を入れて、その子ども達が社会に出て、色々な人とコミュニケーションを取れるようにしていく事が必要だと思います。

そして、保護者の方も、自分の子どもについて困った事とか、子どもの育て方とかで悩んでいますので、学校の誰かが相談相手にならなければいけない。そういう意味でも支援員がいた方が良いと思います。

また、発達障がいの子どもの支援をと言っても、ただあやしていれば良いだけではなく、専門的な知識も必要になるので、研修の場も必要ではないかと思っています。

議長(遠藤市長)

研修会の状況はどうなんですか。

小橋学校教育
課長

支援員の研修会については、年に1回実施しております。

また、学校の先生方に対する特別支援教育の研修については、県北教育事務所とタイアップしながら、年に1回から2回ほど実施しております。

議長(遠藤市長)

宇部委員はどうですか。

宇部教育委員

支援を要する児童生徒数について、全児童生徒数が減ってい

るのに増えている。これは、注意していかなければならないところだ
と思います。

また、これに関わる支援員、先ほど成田委員長からも話があっ
たように、アスペルガーや自閉症など、より複雑になってきているの
で、支援員の研修は、市として力を入れてやっていただきたいと思
います。

支援を要する子どもが減少傾向にあれば良いんですが、今後
ますます増えていくと思いますし、全国的にも大きな問題になって
くると思います。

健常者でなくても、少し障がいを持った子、遅れを持った子でも
生きていけるような社会づくりをしていかなければならないので、こ
れは充実させていただきたい。

後は、親の立場として、自分の子どもが他の子どもよりも劣った
所があった場合は、すごく不安になりますので、ぜひ親の会を立ち
上げていただいて、勉強会とか親同士で支えあったりできれば良
いと思います。

議長（遠藤市長） 一通りお話を頂きました。

今、支援員は全部の学校に配置されているわけではないんで
すか。

小橋学校教育 今年度は、市長のご配慮で人数を増やしていただきましてあり
課長 とうございます。

当市の特別支援学級は、多いわけではありません。

くじかがやきプラン支援員は、通常学級に居ながらも特別な支
援が必要な子ども達の支援をするものであります。

また、親の了承があれば、特別支援学級に入る事になりますが、保護者の同意を得られない場合は、通常学級に在籍して、通常学級で見ていかなければならないというものです。

久慈小学校とかの大規模校では、やはり支援を要する子の数
が多いです。その人数に合わせる形で現在5名を配置しております
が、それでも足りません。小久慈小学校等の中規模校には2名
配置、その他の場合は1名配置、場合によっては1人で複数校を
兼ねている場合もあります。

発達障がいの子ども居て、担任の先生が付きっきりになると、周
りの子ども達が何も出来ない状態になります。そこに、支援員が1

対1で付いてもらっていますので、担任の先生方は学習を進めやすくなっているという面もあります。

ですので、なんとか増やして行きたいと考えております。久慈小学校からも足りないと言われております。

久慈湊小学校は、支援を要する子ども達が7・8人おりますが、特別支援学級がありませんので、全員通常学級に居る状況です。それに対応するには1人2人の支援員では足りないという状況です。

成田教育委員
長

これは特別支援に入るか分かりませんが、幼児期の教育相談の充実ということで、発達障がいの子供達は小さい時から、そういう傾向が現れていると思います。また、その時に親がどのように関わっていけば良いのかというのがあるようです。

それなのに、それを知らない親は、子どもをガンガンと怒ってしまう。そうすると、家庭の状況も悪くなりますし、子どもも指導がしにくい状態になってしまいますので、それぞれ段階での教育相談の充実ができれば良いなと思います。

実際に、元気の泉でやっていると思いますが、その充実ができればと思います。

議長(遠藤市長)

割合がすごく増えていますよね。もう、発達障がいを持った子どもが学校に居るのが当たり前という状況になっていきそうですよね。10人子どもが居れば1人という感じに。

支援員は、特別な資格が必要なんですか。教員免許が必要かどうか。

澤里教育部長

そういう資格は必要ありません。

議長(遠藤市長)

支援員は、実際にどのような事をしているんですか。

小橋学校教育
課長

授業中はその子の隣に居てサポートしています。

先生が何を言っているのか分からない状況なので、「こういう事を先生は言っているんだよ」とか、「ノートを出すんだよ」とか話しかけたりしています。

また、休み時間も何も出来ない場合が多いので、一緒になって遊んだり、他の子どもと関わりを持たせたりしています。

本当に、1対1で生活面も含めて支援をしていただいています。

議長(遠藤市長) 1人の生徒に1人付いている訳ではないんですよ。

小橋学校教育課長 そうですね。ですので、クラスに2名居る場合は、まず1人に付いて1対1でやって、次にもう1人に付いて話しかけてというように、あちこち動いて対応しております。

宇部教育委員 支援の手が足りなくなった場合、その子が何をするか分からない状況になる事もあるんですか。

小橋学校教育課長 そうですね。その時は、担任外の先生とかが入って対応しております。

議長(遠藤市長) 中学校を卒業したら高校に行くわけですが、高校ではどのような体制になっているんですか。支援員のような方が居るんですか。

加藤教育長 長内校に1人いますが、高校には、ほとんど居ません。
やはり、多動性の子ども達も高校に入ってきますので、先ほどの話にありましたが、「教科書を出すんだよ」とか話しかけたりします。
久慈高校には、私が居た頃は、支援員が付いていなければならぬ生徒は居ませんでした。

議長(遠藤市長) そういう子はどこに行くんですか。

吉田教育委員 侍浜の拓陽に行くと思います。特別支援学校の。

議長(遠藤市長) それでは、久慈高校とか東高校、工業には、それほど進学をしないんですかね。

加藤教育長 高校にもアスペルガー的な生徒は居ます。人間関係が読めないで周りの生徒とトラブルを起こすとか、突然感情を爆発させるとか。ただ、授業を壊すという所までの生徒は居なかったです。

議長(遠藤市長) 拓陽は大変ですね。一手に引き受けていて。

成田教育委員長 そのような子を受け入れる準備がきちんとしてきている学校ですので、大丈夫だと思います。

吉田教育委員 拓陽には、高校だけでなく小中もあります。
ただ、障がいの程度、普通学校でも大丈夫ではないかという子については、普通の学校に居ますよね。それ以上の子は拓陽に行っているのかな。まあ、親の考えもあるでしょうけどね。

加藤教育長 結局、親に養護学校でどうでしょうかと勧めても断られれば普通学校になります。

それでは、学校の特別支援学級でどうでしょうかと言っても「普通学級に入れてください。」と言われれば、普通学級になります。ですから、同じような障がいを持った子どもでも、養護学校にいる子もいれば、支援学級の子もいるし、普通学級の子もいる。

議長(遠藤市長) それで、普通学級に入ってくると対応が必要になるということですよ。

加藤教育長 その通りです。

成田教育委員長 発達障がいの子がクラスに3人居た場合、その3人とも違います。算数はできるけど国語がダメとか、全員がバラバラなので、子ども達の出入りが結構ある。

例えば、国語では支援学級に居て、算数は普通教室にというように。親も要望を言う。算数は普通教室でやらせてほしいとか。全部が違うので、これも学校で支援員が不足していると言う要因になります。

また、発達障がいの子の親の中には教育熱心な方も居ます。病院で指導を受けたりしていますので、支援員よりも知識がある。なので、支援員は、それ以上の事を覚えていないと、親から不平不満の声が出てくる。

宇部教育委員 普通の部分は、普通の部分として伸ばしてほしいという親の強い希望があるんですね。

支援員の採用について、何か規定とか決まりはあるんですか。

- 小橋学校教育
課長 特に条件は設けておりません。
面接を行って、小学校と中学校があるので、どちらに配置しても
良いかというのは聞いておりますが、何かをしてくれとか、何々が出
来ませんかという事は聞いておりません。
- 議長(遠藤市長) ということは、支援員の方は学校現場に入って実践で覚えてい
くということですか。
- 小橋学校教育
課長 周りの先生達に色々と聞いているようです。
最初は大変だと話していますが、先生方が色々と教えてくれる
ので、その中で自分の役割が分かってきて、動くという状況です。
- 議長(遠藤市長) 支援員は全員女性ですか。
- 小橋学校教育
課長 今のところ女性です。
吉田教育委員 子どもにとっては、お母さんの方が良いんじゃないですか。
- 成田教育委員
長 ただ、1時間1,000円という事で、一家を支える男性がその仕事
に付くというのは、なかなか出来ないんじゃないですかね。
しかも、夏休み冬休みは給料が出ませんからね。
- 加藤教育長 年額でどのくらいでしたか。
- 小橋学校教育
課長 最高で1,200時間なので、年額だと120万円が上限です。
議長(遠藤市長) 先生のOBとかはどうなんですか。
- 加藤教育長 適任だとは思いますが、教員免許を持った方とか特別支援の
専門家は見つけられないのが現実です。給料面もそうなんです
が、資格を持っていて仕事をしていない人がなかなか居ない。
先生のOBも、やはり色々な所で既に仕事をしている方が多い
のが現状です。
- 議長(遠藤市長) この件は、全市町村でも課題なんですよ。

小橋学校教育課長　　そうですね。久慈市だけという話ではないと思います。
逆に、久慈市は支援員を置いている方だと思います。

議長（遠藤市長）　先ほど、話がありましたが幼児期からというのも課題ですね。

加藤教育長　　この間、教育委員会で保育士向けに特別支援の講習を開いたんですが、保育士からは「大変ありがたい」と言われました。
やはり、保育園の先生方も、そういう知識が欲しいようです。
もちろん、親もですけどね。

議長（遠藤市長）　学校の先生方の集まりの時に、先生方からも支援員の増員について同じような話があった。

　　本当は、こういう事は国がきちんと人件費を確保してやらないといけない。市町村によって、対策にバラツキがあってよいものではない。久慈市はやっているが、隣の町はほとんどいないという事があってはいけないと思う。

　　話は変わりますが、この間、学童保育の関係者と話をする機会があって、支援が必要な子どもについての情報が欲しいと言っていました。学校からは、個人情報とか守秘義務とかで、その情報が流れてこないと話していましたがどうなんですか。

小橋学校教育課長　　学童保育と学校の連携の問題だと思います。

　　その学校の子どもが学童に行っていると思うので、遠慮無く、学校に聞いていただければ学校は教えると思います。

議長（遠藤市長）　　そうであれば、そういう指示を出していただきたい。昨年も同じような事を言われた。

　　情報が無いから、子どもが来てから「あれ？」と思って、指導員の配置とか対応が後手に回って大変だと話されていた。

加藤教育長　　その話は聞いておりました。高校の場合は、学校に入る前に各中学校をまわって聞きに行っています。

議長（遠藤市長）　　聞きに行かないといけないんですね。自動的に集まってくるわけではないと。

加藤教育長

人工肛門とか、片目が見えないというケースは中学校から上がってきますが、性格的なものは来ないので、聞きに行きます。そうすると教えてもらえます。

学校側からすれば、聞きに来れば伝えるという傾向があるので、そのあたりのシステムは確認します。

学校と学童は、すぐ近くに居るわけですので、難しい事はない。少し歩けば話し合える距離です。

いずれ、学校と学童のコミュニケーションの話だと思います。学校の方から、この子はこういう子なのでよろしくお願ひしますと積極的に学童に行くのが普通なのか。今度こういう子が学童に来ますがどのような子でしょうかと学童が学校に聞きに来るのが良いのか。そのあたりは、お互いのコミュニケーションの取り方なので、確認して対応します。

成田教育委員長

子育て支援センターが関わってくれば、子どもだけの問題ではなく、家庭での育て方も含めて対応できますし、学校だけではなく、児童課から聞けば全て分かる事になると思います。

議長(遠藤市長)

この問題は、学校や教育委員会だけの問題ではなくて、親も関わる問題ですからね。

赤ちゃんにミルクをやる時にスマホを一生懸命に見ていて子どもを見ていない親が多い、増えているという事がありますからね。

吉田教育委員

そこから教えなければいけない時代ですね。

宇部教育委員

女性も、皆さん働いていて忙しいという事もありますよね。

議長(遠藤市長)

それでも、夜遅くに、学校に入る前の子どもを居酒屋に連れていく親もいる。注意すると「個人の問題でしょ」と言われてしまう。

成田教育委員長

生徒指導的な話になりますが、そういう家庭環境が加わると生徒指導的にも難しい子どもに成長してしまう可能性がありますね。

議長(遠藤市長)

学校では、親への教育をしたりするんですか。

加藤教育長 PTAとか、色々な会合の場では、「親にはこうして欲しい」という事を話はしています。

吉田教育委員 ただ、そういう場に出てきませんよね。
いつも同じメンバーというか。そういう意識が高い人は出てくるんですが、聞かせたい人達が出てこない。そこを、どうするかというのが問題ですよ。

宇部教育委員 私は、何度か子育て支援の関係で若い親達に話をした事がありますが、ダメだなと思った事があります。聞く耳を持っていないんです。そういう親達に、少しでも意識を持ってもらうためにはどうすれば良いんでしょうね。

吉田教育委員 地道に繰り返していくしかないと思います。その中で、その本人が気づくかどうかは、申し訳ないが本人の問題だと思います。

今、色々な事を手厚くやっていますよね。保健センターでも学校でも。情報はたくさんあります。それを真剣に聞こうと思えば、とても役に立つことが昔より溢れている。それを見るか見ないかの問題。

ただ、そこは誰もどうにもできない。本人の問題。どこで、その人が気付くのかということだと思います。

なので、今の状況で一生懸命に、地道に続けていくしかないと思います。むなしい作業と思っていても続けるしかない。

その内に、少しずつ変わってくるかもしれません。子どもが成長すれば親も考え方や見方が変わってきます。そういう時に、そういえばと思って参加できるような体制を続けていくしかないと思います。

議長(遠藤市長) 学校現場でも、子どもだけではなく、親の方が気になるという事があるんじゃないですか。

成田教育委員長 そうなんです、学校は親を育てる場所ではなく、子どもを育てる場所なので。

子どもの行動を見て親が気付いてくれれば、例えば、ハミガキとか読書とか、子どもが一生懸命にやれば、その姿を見て親が気が付く。これが学校のやる事なのかなと思います。

議長（遠藤市長） 子どもは親の影響を大きく受けて育ちますよね。親を見て子どもは育っていく。そうすると、親の行動に問題があると変えるのが大変だと思いますが。

成田教育委員長 例えば、信号で子どもが赤信号できちんと止まった時に考え直しましたという親が居ました。なので、子どもを見て親が育つという場合もあると思います。

話は変わりますが、学力向上についてなんです、学校ではすごく研究をしています。この間も道徳の研究発表がありました。学校では、子ども達に豊かな教育を提供しようと日々努力をしています。

ただ、何か起きると、親は個別指導をしてくれなかったという話になってしまいます。いかに、学校が子ども達に豊かな教育をしようとしているのかという事をアピールしていかなければならない。

そのために、市として、親や地域の方が学校に入るという事が出来ないかと。そこで、見ることによって学校でこういう事をしようとしている、こういう子どもを育てようとしているというのが分かっていたらいいと思います。指導案を見せるというのも良いと思います。

加藤教育長 学校に入るというのは具体的にはどういう事でしょうか。

成田教育委員長 授業参観でも良いですが、実際に地域の方が学校に来ていただくということです。

加藤教育長 今までもやっていませんでしたか。

小橋学校教育課長 現在でも、地域に開かれた学校という事で、1週間、地区の方は自由に来て良いですよという事を各学校で取り組んでいます。

加藤教育長 実際は、なかなか来ないですけどね。

どうやったら地域の方が来てくれるのか考えています。何か出し物をやった方が良いのかとか、講演会をやってみたら良いのかとか。

確かに、地域の人なり、色々な方が学校に入って見てくれるというのは子ども達にとっても良いことだと思います。先生だけではなくて、周りの大人が見ている、自分たちの行動が見られているというのは、良い影響を及ぼすと思います。

成田教育委員長 お客さんが来ると、やはり頑張ったりします。学校公開で人が多く来ると頑張ります。教育委員会の方が見えられた時も同じです。

議長(遠藤市長) 教育長もかなり学校をまわられていますよね。

加藤教育長 学校教育課長と2人で年に2回はまわっておりますし、その他にも行っています。実際に授業も見えています。

議長(遠藤市長) 分かりました。それで、来年度は増員要求を考えているんですか。

小橋学校教育 その予定であります。

課長

議長(遠藤市長) 話を伺っていると必要だとは思いますが、財源の問題がありますので。

この間も、学校に遊具がないと言われまして、鉄棒は全校にあります、雲梯も比較的揃っています、ブランコやジャングルジムがほとんど無いという話なんです。自分の体を支えられないという子どもがいるという事なんです。

財源的な事もありますので、一括に整備とはいかないんですが、教育委員会には順番付けをして貰うことにしています。

設置をしていかないと、子どもの時に経験しておかないと、親になった時に自分でやった事が無いという時代になりそうなんです。

本当は、文部科学省にしっかりとしてもらいたいんです。財源に余裕がある市は、しっかりと揃えます。そうではない市では揃えないとなると問題ですよ。

それでは、とりあえず今の所は以上でということで、次に生涯学習についてですね。

補助率が3分の2に戻るということですね。こういう所なんですよね。国は、震災から5年経過したから良いでしょうとなる。

別な話ですが、津波被害があって、雇用の場を創るという事で、国が賃金の全額をみってくれるという事業があるんですが、来年度から半分にしますという話がありました。という事は、半分の人は仕事がなくなるということです。現状を維持したい場合は、市で半分を負担しろという事です。これから、地方創生という時に、国は何を考えているんだという話ですよ。

戻りますが、この事業の中でやめて良いメニューはあるんですか。

吉田教育委員 無いと思いますよ。

議長(遠藤市長) どちらかという、もっと充実をしていきたいという事ですね。

吉田教育委員 そうですね、これも大事な事業だと思います。

議長(遠藤市長) 補助率を下げないで欲しいという事を、きちんと国に話をしているかないと。

確認ですが、学校支援地域本部事業の地域ボランティアとは具体的にどのような事を行っているんですか。

五日市生涯学習課長 今年度、久慈市では小中学校7校に地域コーディネーターを配置して、スクールガードとか、草刈等の学校の環境整備とか、行事の補助、読み聞かせなどの活動を学校支援ボランティアの人達と協力をしながら進めております。

議長(遠藤市長) ここに載っていない学校はどうなんですか。

五日市生涯学習課長 要望を吸い上げて、配置をしている状況なので。

議長(遠藤市長)

学校から要望はあるんですか。増やしたいとか。

実際、ボランティアとかは、居た方が良いでしょうね。草刈とか、スクールガードとかね。

吉田教育委員 この地域コーディネーターの役割は、具体的に読み聞かせとか草刈をしますので地域の皆さん来て下さいと地域に呼びかけをしている人だと思っています。

それも大事なことなんですが、この方達が学校に居ることによって、先ほどの話とも繋がりますが、他から学校に人が入って来ますよ。地域の人達が常に学校に居る。お母さんたちもPTAの活動ではなく、もう少しやわらかい活動なので来やすいようです。

学校を常に見れる。子ども達も、先生達も見れる。こういう事の方が大きいのではないかと思います。

また、親と先生のコミュニケーションとか信頼関係を作るのは結構難しい所がありますよね。それこそ、問題あった時しか接点が無いという事もあるので、普段から、少しずつ学校に近づいて行けるように、親と先生方や学校の間に入る人という印象で見えていました。

議長（遠藤市長） 成田委員長はどうですか。

成田教育委員長 コーディネーターは、学校で色々な活動をしています。読み聞かせから、稲作りから。

これまでは、副校長がやっていた事をコーディネーターの方がやってくれるという面で、学校にとってはとてもありがたい方だと思っています。

議長（遠藤市長） 本来は副校長の仕事なんですね。

成田教育委員長 そうですね。副校長は、PTAから何から。主幹教諭がいれば別なんですけど。

議長（遠藤市長） 副校長先生は忙しいんですか。

成田教育委員長 忙しいですね。色々な事務局的な仕事もやらなければいけないので。

加藤教育長 やはり、仕事は副校長が一番多いと思います。

校長が、バタバタしていれば教員は相談もできないので、校長が落ち着いて、余裕を持つために、副校長が事務局的な事をしていきますからね。

議長（遠藤市長） 副校長先生の多忙化の問題もあるわけですね。

吉田教育委員長 それもあると思いますが、副校長先生から言われるのと、自分と同じような方に手伝って下さいと言われるのでは、ちょっと違いますよね。気軽に来やすいですよ。

ますます子ども達が少なくなっているので、地域の皆でやっているという状況が理想的だなと思っています。

どうしても、学校は閉鎖的になってしまう所があるので、そこを開けているような形にしていけばと思います。

議長(遠藤市長) コーディネーターは全学校に配置されていないですね。

吉田教育委員 そこは予算的な話が絡んでくると思います。
ただ、配置されていない学校でも同じような活動をしていますよね。そこは、先ほどの副校長先生達がやっていると思いますが。

成田教育委員長 人脈があって地域を覚えているコーディネーターだと助かります。どんどん、活動が広がりますし、色々な地域の方を紹介していただけますので。

宇部教育委員 コーディネーターの方の報酬はどのくらいなのでしょう。

五日市生涯学習課長 コーディネーターは、時給 1,000 円です。

成田教育委員長 小久慈小学校ですが、地域コーディネーターが入っていたんですが、もう流れが出来たので自分達で出来ますよねと言われて引き上げていきました。

その後も、頼めば無償でコーディネートしてくれるんですが、やはり生活がありますから、報酬がある所に行ってしまう。

地元は無報酬でやっていただける方がいれば本当は良いんですけどね。退職した方とかを募って、その方を配置するとかできないものでしょうかね。生涯活動の一環として。

議長(遠藤市長) 無報酬でやっていただける方が居れば良いんですけどね。
逆に有償なので責任を持ってやっていただけるという事もありますよね。

これは、来年度増額要求する予定ですか。

五日市生涯学習課長 増額というよりも、現状維持を考えておりまして、3分の1の市費分をと考えております。

議長(遠藤市長) 今、学校は外の人が入って来てもらった方が良いという時代なんですか。先生方が、学校は私達の城ですから来てもらっては困

るというわけではないんですね。昔、そのような事を言われたことがありましたので。

加藤教育長 やはり、昔は、教員は自分達がやらなければいけないんだという意識があったと思います。そういうプロ意識があったと思います。もちろん、今でもプロ意識はありますが、ここ 10 年ぐらいで変わってきたと思います。なんでも自分でというよりは、皆で協力してという感じに。

議長（遠藤市長） 今は、そういう時代ではないんですね。
行政をやっている、市民からどんどんアイデアを出していただくという事でやっています。私達はプロですから 100%分かっていますというのは、嘘ですね。やはり、どんどん色々な方とコミュニケーションをして、良い方向性を出していきましょうという時代ですので、学校も同じなんだなと思いました。

宇部教育委員 この間、教育委員会の研修で大宮に行かせてもらったのですが、学校ボランティアに関して、木更津で分かりやすいパンフレットを作っていて、標語で「いつでもだれでも気持ちさえあれば無理せず楽しく押しつけず できる人ができる時にできるだけ」という学校から地域への呼びかけがありました。

学校ボランティアが 2,000 人居て、ほとんどの学校にコーディネーターも居て、少しだけ報酬を支払っていた。まったく報酬を無くすると、先ほどのお話の中にもありました事になるので、ほんの気持ち分を出しているという話がありました。

議長（遠藤市長） 学校ボランティアは市全体で 2,000 人という事ですか。

宇部教育委員 市全体という話だったと思います。草刈であったり農業であったり、それぞれの得意分野で登録をするんだそうです。

それで、コーディネーターが、その中からピックアップして声をかけるという事なようです。住民の方ができる事で学校に関わる。

加藤教育長 それは、どこの学校にも行くんですか。例えば、久慈小学校学区に住んでいる人が山根に行くとか。

宇部教育委員 その通りだと思います。そういうのもあるなと思って聞いていました。宇部の方が夏井の学校にとか、市として登録をしておけば色々とできますよね。

成田教育委員 話は変わりますがよろしいでしょうか。

長 いじめの関係なんです、名古屋で発生したいじめで、河村市長が教育長を呼んで猛省させたという報道があったんですが、いじめを反省させて、次が何なのかが見えてこなくて。

久慈市でも、何かあれば第三者委員会を立ち上げて、因果関係を明らかにするわけですよ。その後どうなるのかなと。

因果関係を明らかにした後の、市と学校と保護者の関係の修復がどのようになされていくのかというイメージが私の中に無くて。

議長（遠藤市長） 滝沢市等でいじめによる自殺があったわけですが、そういう事があると、第三者委員会が立ち上がって、原因がどこにあったのかという報告書がまとまって、再発防止の対策を講じなければならないですよ。

そして、それを学校に徹底するわけですよ。大変ですよ。現場はピリピリしますし、教育委員会は国からとか報道から色々来ますので、常に情報収集をしなければいけないです。

また、委員会から校長に、校長から教職員に、再発防止のための厳しい話があると思います。非常に良くない雰囲気生まれると思います。今は、常に責任追及の時代ですので。責任者は誰だ、何をして来たんだという事になると思います。

成田教育委員 名古屋の件でも報道された事によって、それを見た人が「そうだ教育委員会は反省をしなければいけない」と捉える人がどのくらいいるのか。ほとんどの人がそう捉えるのであれば怖いなど。

そうなれば、教育委員会も学校も困ってしまう。それでは子ども同士を関わらせないようにしようかという話にもなってしまう。それが怖いと思う。

議長（遠藤市長） その可能性はあると思います。徹底的に管理をしなければならない。また同じような事が起きたら何をしていたんだとう事になってしまう。

そうらないように、久慈市はやっていきたいと考えています。ただ、何が起きるかというは分かりませんからね。

加藤教育長 そういう意味では、第三者委員会にしっかりと見てもらって、教育委員会内部だけでは、情報を隠すんじゃないかとか余計な疑念を抱かれてしまうので、他の目で見てください。

 次は、子どものケアですよ。被害者については本当に不幸な事で亡くなっているわけですが、加害者がこれからどう生きていくのか、それも支えていかなければならない。それが教育委員会と学校がやっていかなければならない事ですよ。

議長（遠藤市長） そこでも、先ほどのコーディネーターとか支援員という人達が学校に入って様子を見る。子ども達もそういう方を意識していくというのは、効果がありそうですね。

宇部教育委員 雰囲気で見分かりますよね。この子は皆と上手くやっていけない感じだなとか。大人が、そういう子に気がついて声をかけてあげるとかできると思うんですよ。

吉田教育委員 学校以外の時も声がかかりますよね。顔が分かっていたら。

議長（遠藤市長） 小橋学校教育課長、どうですか先生の意見として。
 支援員とかコーディネーターとか、先生ではない大人が学校に入る事は、いじめ防止対策にも効果があると思いますが、どうですか。

小橋学校教育課長 効果があると思います。学校の先生以外の目から見える事もあると思いますし、子ども達も学校外での活動もありますので、地域の方の目があるというのは、効果があると思います。

 いかに、学校と地域の連携、環境づくりをしていくかという事だと思います。

 また、学校側も地域側も、お互いに遠慮している部分があると思いますので、そこをコーディネーター等で繋いでいけば良いのかなと思います。

吉田教育委員 重点戦略に地元愛の育みというのがありますよね。私は、これがすごく大事だと思っています。

 総合計画案では、具体的に職場体験であるとか、地域で何をやっているのか調べましょうという活動になると思います。

もちろん、これらも大事ですが、同時に日常的な学校生活が上手くいってれば、思い出になると思いますが、自分が大きくなった時に小学校や中学校の時に、こんな大人の人が関わってくれていたなと思うことも、とても大事なことだと思います。1人でも2人でも、子ども達が「この人すごいな」とか「尊敬できるな」という大人に出会うという経験の大事さ。もちろん、先生方もそうですが、地域のお爺ちゃんであったりお婆ちゃんであったり、お父さん、お母さん、他の親御さんでも良いですし、そういう方が周りに居る中で子どもが育つことの大事さ。

こういうことが、大人になった時の地元愛に繋がっていくような気がしています。

宇部教育委員 市長さんからの挨拶で、久慈の高校生が卒業すると7割が外に行くという話があって、7割も行ってしまうのかと思い、すごく残念に思っております。

何とかして、地元の風土の中で暮らしていける子ども達が1人でも2人でも増えていけるような、何か施策があればと思うのですが。

議長(遠藤市長) 今、久慈市に仕事があるんです。人手不足なんです。

北日本造船でも十分に人が雇えないので、自前でアパートを建てて九州方面等から人を集めているんですよ。社長からも地元採用ができないと言われている。人が居ないから。縫製業からも言われています。コンピューターを扱う正社員を募集しているけど、採れないと。

地元の企業を選んでもらえない。東京等に行ってしまう。新卒がこっちを向いてくれない。

それで、キャリア教育として、職場見学を中学校から入れていこうとしている。また、会社側が学校を訪問して子ども達に会社のPRをしてもらうおうとしています。

高校生では遅い。進路を決める中学生あたりから、久慈市にはどんな会社があって何をやっているのか、社長が何を考えて社員にどのように接しているのかという事を丁寧に教えていかないと、募集をしても人が来ないという状況です。

十文字チキンカンパニーも12月から新工場が着工です。再来年には、86人の正規雇用の予定です。社長からは人を集められますかねと言われている。これは正雇用なので集めなければいけ

ない。また、これから、福山通運も久慈市に来る。

東京に比べれば若干給料は安いかもしれない。でも、貯金は東京にいるよりも貯まる。ただ、若い人は東京に行ってみたいと思う人が多い。そこで、地元の良さを語っていかなければいけないと思っています。

秋祭りもそうです。秋祭りに子どもが参加して、自分ももっと秋祭りに参加したいという気持ちを育てていきたい。単に秋祭りをやるのではなく、子ども達が地元に残って秋祭りを盛り上げたいという気持ちになる。そういう地元の良さを語っていきたい。

親の教育も必要です。久慈市には、何も無い田舎だ、不便だと言うのではなく、こんなに良い所はないと子どもに話す。地元愛をいかに育てていくのか、親も含めて意識を変えていかなければならないと考えています。

宇部教育委員

ひとつ気になっている事は、市の地域の周りでも、引き籠って働いていない青年が結構いるんですよ。その人達をなんとか外に出して、自分の食い扶持分は働けるように、なんとかそういう手立てをやっていけたら良いなと思っています。

先ほど、市長さんがお話したように働く場所があるのであれば、何とかして籠っている人達を外に出して就職に繋げていけないかなという気もします。

議長(遠藤市長)

今、県内だと厚労省の事業で盛岡と一関にサポートステーションというのがあります。引き籠もっている人達は対人関係が上手く出来ないので、そこからはじめなければいけない。仕事がありますといって出来る方は良いんですが、まず家から出ることが障がいになっている人はコミュニケーションが上手くできない。それを丁寧にやっていかなければならない。ただ、この事業も地元負担がある。

私は、県に居たときに盛岡の立ち上げに関わったんですが、半分以上は精神的なものがあって、これをどのようにほぐしていくのが難しい。でも、これも大事なことなんですよ。

宇部教育委員

秋田だと思ったんですが、福祉課がそういう所を訪問して、チラシとかパンフを配ったり、働きかけをして、だいぶ成果をあげているようなんですよ。やはり、努力は必要ではないかと思います。

議長（遠藤市長） 国も色々な施策を行っているんですが、中々広がりきらない。

そういう方々が仕事に就いていかないと、生活保護とか施設という話になってしまう。そうすると、本人も大変ですが、そこには税金という事になるので社会も大変になる。いずれ、引き籠もりも何とか考えていかないとダメですね。

後、早期離職も課題なんです。高校生だったか、3年以内の離職が4割なんです。大学生でも4割を超えていたと思います。就職しても早期に辞めてしまうと条件が悪くなってしまいます。それが、年を取ってくるとアルバイトすら無くなってしまいます。そうすると結婚もできない、そのうちに家から出なくなってくる。

そこで、今年から石の上にも3年という事で、3年間同じ会社に勤めた方に10万円を支給するという事業を新たに始めた。

これまで、会社に対して、1人雇用したら15万円を支給していたが、経営者から、会社には要らないから3年間勤めた社員にこの15万円を分けてほしいと言われたので始めた。

次に、後2年勤めた方というのも考えている。5年も勤めれば、だいたい会社にも慣れてくるだろうと思っている。

単に就職の時は、就職率何%ということで、就職の手助けはするが、早期に退職してしまった人を誰もフォローしていない。

そういう事もあり、久慈市に残って仕事をして、しかも長く続けてほしいという事で始めた。

成田教育委員長 介護の問題もありますよね。親が老齢化して、子どもに帰って来てほしいという事になって、介護しながら仕事ができれば良いですよ。先ほどの造船でも。介護しながら仕事ができるというシステムができれば、本当に良いですよ。難しいですけど。

議長（遠藤市長） 国は、在宅で、家族で面倒をみなさいという方向性ですが、今は女性も働きに出る時代です。

親を自宅で見るという事は誰かが付いていなければならないという事ですし、いくらヘルパー制度が充実していても、家族が見るという事が基本の制度なので。それが出来るのかという話ですよ。

成田教育委員長 それが出来ると仕事のシステムが必要ではないかと。難しいですけどね。そういう時代になって来ていますから。仕事を辞めて久慈

市に来て、高齢の親と年のいった子どもと一緒に住むという構図ができるとあまりよくない。

親を病院に連れて行くという時に休みが取りやすいとか、そういう事からでも良いですけどね。親を見れるだけの余裕がある職場とこののを考えていかなければいけませんね。

議長(遠藤市長) その話であれば、親の介護だけではなくて、子どもの看護も同じですよ。子どもが突然熱を出したので仕事を休みたいと言ったら嫌な顔をされたという話も聞きますのでね。

色々な事が関連していきますのでね。難しいですね。

話があちこちに行つてすみません。色々とお話をいただきましてありがとうございます。

地元の色々な方が入っていただいて、こういう発達障がいの子供達への対応をどうするのかという事だけではなく、先生以外の大人が学校に入ることによって、いじめ防止対策にもなるのかなという気もしてきました。このあたりは、先生方に教えていただきながらですが、しっかりと対応をしていかなければいけないと思います。

初めに話しましたとおり、財源的には大変厳しい中ではありますが、子供達にしっかりと目を向けて取り組んでいきたいと思えます。将来の日本を、久慈市を担っていただかなくてはなりません。文部科学省にしっかりとやってくれと言うだけではなくて、市としてもやるべき事はやっていくという姿勢でいきたいと思っております。

本日の議事については以上でよろしいでしょうか。

閉会

澤里教育部長 大変ありがとうございました。色々な分野に渡つてご議論を頂きました。教育委員会事務局といたしましても、来年度の予算要求にあたって、色々とお研究をしながら進めていきたいと思えます。

以上で本日の久慈市総合教育会議を閉会いたします。

本日は、大変ありがとうございました。

午後 4 時 51 分終了